

創建

そうこん

巻頭言／千葉正裕・1

卒業生の活躍紹介・2～3

大学院特別講義報告(積田洋先生)・4

大学院特別講義報告(富田佳宏先生)・5

第53回日本大学工学部学術研究報告会・6

学術論文／日本建築学会大会発表論文・7

新任の先生／教室ニュース・8

2010・12・10 VOL.45 NO.3 (通巻135号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

■就職に強い工学部

リーマン・ショック以降の景気後退により、大学新卒者の就職環境は依然として厳しい状況が続いています。平成21年度の就職内定率は全国平均で80.0%でした。建築学科の内定率は学部95.5%、大学院100.0%で、全国平均を大きく上回る結果となったことは、本紙vol.45 No.1 (通巻133号)でもお伝えした通りです。就職先としては一流企業や上場企業が多く、率だけでなく、質の面でも充実していることがわかります。

工学部が就職に強い理由はいくつかあります。この春、工学部を卒業した学生の“3人に1人”は、工学部就職セミナーに参加した企業に就職が決まりました。工学部の学生を積極的に採用したいと考えている企業だけが集まるので、工学部就職セミナーが内定に結びつくビッグチャンスにつながっていることは言うまでもありません。

全国に広がる卒業生のネットワークや早い段階からの就職支援など、工学部の優位性は他にもたくさんあります。企業によっては学校推薦を活用することも可能です。工学部の卒業生がリクルーターを務めている企業も多く、より親身になって相談にのってもらえることも強さの秘密につながっています。

こうした状況を踏まえると、厳しい就職戦線を勝ち抜くためには、「就職に強い工学部」のメリットを最大限に活用することが鍵を握ってきます。就職活動というのは一人ではできません。建築学科の就職指導委員の先生や就職指導課のスタッフなど、気軽に相談できる体制を活かしましょう。

また、「先んずれば制す」とはよく言ったもので、早めに動くことも大切です。首都圏の大学と比べて、東北の大学は就職活動がスロースタートだと言われているので、どんどん先手を打つぐらいの気持ちで臨む必要があります。就職試験対策やSPI対策は、就職活動の第一関門でしかありません。

面接までスムーズにたどり着くためには、早い段階から情報を逃さず、いち早く企業研究を始めること。工学部の就職支援も早めに活用してチャンスを広げてください。

■日常の自分を大切に

よく学生から「就職活動では、どんな心構えが必要ですか」と聞かれることがあります。就職活動中だけ“特別な自分”を取りつくろっても良い結果は生まれません。大切なのは日常の自分です。日常の自分が就職活動での自分になり、社会に出てからも生きてくるのです。人間力を高めるためには、人としてできて当たり前のことを日頃から実践することが大切です。

例えばコミュニケーションはどうでしょう。話し方や聞き方には気を配っていますか。簡単だからという理由で、メールに頼ったりはしていませんか。

工学部の強みを活かそう

教授 千葉正裕

東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センターの「全国大学生調査の追加調査(2009年)」によると、就職して数年の若手社会人(348人)に「仕事をする上で必要な能力は？」と質問したところ、「人とのコミュニケーション」という答えが一番多かったそうです。コミュニケーションは信頼関係を築く礎です。日頃から丁寧なコミュニケーションを心がけてください。

また、社会生活を送る上で必要なマナーやエチケットも、ふだんから気をつけていないと、いざというときに実践できません。ある企業の面接で、こんな出来事がありました。寒い中、会場に到着すると、いつものように玄関先でコートを手を脱いだAさん。折りたたんだコートは手に持って、面接の控え室へと向かいました。一方、玄関を通

るときコートは着たままで、控え室に案内されて初めてコートを脱いだBさん。いずれも面接の本番前の出来事ですが、その様子は面接官にしっかりとチェックされていたのです。どちらの学生が就職への切符を手にしたかは、諸君の想像にお任せしますが、日頃から実践しているかいないか、その違いが出てしまったケースと言えます。

日常の自分を大切にすることは、今からでもすぐに始められるはずですが、コミュニケーションやマナーなど、ふだんできることを実践するだけで、就職活動がぐんと有利になることもありますので、ぜひ日頃から意識して自分の人間力に磨きをかけてください。

■自分の可能性に挑戦

これからの社会を生き抜くうえで、グローバルな視点を持つことも大切です。最近では就職試験でTOEICの点数を参考にする企業も増えてきましたが、国際感覚を身につけ、世界に目を向けるために英語を学ぶことも必要です。日本の建築技術は世界でもトップレベルにあります。建築学科の卒業生が、大学で学んだ知識や技術を土台にしながら、やがては世界を舞台に活躍することを願っています。

世界といえば、10月28日、「若手研究者を育む」と題したノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」が54号館で開催されました。ノーベル化学賞を受賞した田中耕一先生のお話を聞いて、感銘を受けた人は多いはずですが、これからの時代を担う若手研究者には「失敗や挫折を恐れず、自分の可能性に挑戦してほしい」というメッセージが贈られましたが、この言葉はやがて社会に羽ばたくすべての諸君に通用するものです。可能性に挑戦する気持ち、それこそが自分の成長につながります。就職活動でも失敗を恐れることなく、自らの力で可能性を切り拓いていってください。

(広報担当)

卒業生の活躍紹介

サービス業・建築設計監理職

「ものを見る・聞く・知る」[コミュニケーション力]

伏野 隆



卒業後、官公庁の仕事を中心とする小規模設計事務所に勤め、公団住宅の監理や外壁改修監理・公団出向などを経験し、商業施設・都営住宅・空港施設・学校・保育園など設計・積算の業務に携りました。現場説明から入札契約・設計・積算・協力事務所手配・交渉など、全ての業務に係わることができ設計監理を一通り経験し自信もついてきた時期でした。

東急設計コンサルタントへ入社し、郡山の大学出身でスキーを経験していたこともあり、裏磐梯のグランデコスキー場全施設の設計監理を担当しました。入社1週間目に北海道・上越のスキー場を視察し、基本設計の見直しから始め実施設計、冬の工事休止中は東北方面など多くのスキー場を楽しみながら視察し、建物に活かすことができました。12月オープンにむけ、関係者と五色沼付近の民宿に泊まり監理にあたりました。

ここ10年近く鉄道関連施設の業務に携っています。駅バリアフリー化・駅改良・地下化・エキナカ商業施設など、多くの方が利用される施設として細心の注意や配慮が必要です。

建築工事は、多くの関係者（事業者・設計者・施工者・官公庁・メーカー・別途業者など）との調整協議が必要となり、設計・監理には技術力にまして、より「調整力やコミュニケーション力」のある人材が求められています。弊社もプロジェクトをまとめ、リードしていける人材を求めると同時に育成にも力を入れています。豊富な経験・知識・バランス感覚などを養うには、建築に興味をもって多くの建物・材料・製品などを「見る・聞く・知る」また、「人との付き合い」を日頃から心掛けておくことが重要だと思います。

最近の1級建築士試験は、かなり難しい様です。院卒で受験学校3年通いでも受からず、働きながらの学習は辛いですが設計などを目指す方は第一歩です。また、日本建築士会連合会の「専攻建築士」（ハの専門領域）（信頼のおける建築士）自己学習・研修講習会などの受講により、CPD単位を取得する制度があります。資格取得後も日々勉強が欠かせない状況です。近年は管理職として設計監理・営業・管理に励んでいます。（ふせの たかし）

略歴

- 1980年 建築学科卒業（足立研究室）
- 1980年 ㈱創矢建築設計事務所入社
- 1991年 ㈱東急設計コンサルタント入社
- 2010年11月現在、建築設計本部、第三設計統括部、副統括部長



田園都市線たまプラーザ駅（2009年）

建設業・施工管理職

魅力ある人であれ

森田 健一



入社してから、かれこれ24年。これまでを振り返ると、超高層RCマンション（今では珍しくもないが、当時は先駆的な物件）に始まり、超高層オフィスビル、学校校舎、役所+保健所+ホール+体育館+住宅の複合施設、建物の解体、百貨店の改修、海外での工場、オフィス等を経て帰国後支店の技術管理部門に配属となった。4年後現場に戻り、超高層オフィスビルと多摩美大附属図書館、ホール+商業ビルの再開発工事等に携わってきた。我ながら恵まれた現場を経験してきたと思う。

最近の現場である多摩美大附属図書館は、規模は小さいものの、伊東豊雄事務所の作品ということもあり、工事前から注目度が高かった。技術的な難易度の高さもあり、竣工後に雑誌社から原稿執筆依頼が複数あった。この建物はBCS賞も受賞でき、この物件に主体的に関わられて技術者冥利に尽きると感じた。自分の携わった建物が、雑誌の表紙を飾ったり、ドラマの撮影に使われたり、カラオケのバックに映っていたり、ゴジラに壊されたり、メディアに取り上げられるのは、嬉しいものである。

タイトルを「仮囲いの中の懲りない面々」にしようと思った。これは、某小説タイトルもじったものだ。我々工事中の現場は、関係する人が多いだけに、摩擦、軋轢、利害調整等の苦勞も多く、つらいこともあるが、建物が完成し、竣工に至ることで、その苦勞が報われ、「またやろう」という気になるから不思議である。また、プロジェクトごとに新しい出会いがあり、作る場所も物も異なり、現場は毎日状況が変わるので、一日として同じことの繰り返しがなく、新鮮で刺激的な職場である。

建設業は人が財産だと言われる。私を含めて、ゼネコンは建物を自分で作った気になっているが、実は多くの人々の協力を得て、請け負った建物を作ってもらっている。極端に言えば、上は政治家や大企業の経営者から要望を聞き、下は素性の怪しい人夫のような人達に指示を出し、時には一緒に汗をかいて仕事を進める必要がある。こういった様々な人々との交流をスムーズにし、施主や設計者の意図を汲み取り、多くの協力業者と共に建物を作り上げていくのが我々の仕事だと考える。挨拶ができない人、人との接触が苦手な人、情報をひとりで抱えて共有できない人は、現場監督には向かないかも知れない。

あなたが現場監督を目指すなら、まずは技術者として国家資格の取得をするとともに、管理者として人の使い方を身につけることが重要だが、何よりも人として挨拶ができて約束を守る誠実な人、魅力ある人を目指してほしい。（もりた けんいち）

略歴

- 1986年 博士前期課程建築学専攻修了（黒田・浅里研究室）
- 1986年 鹿島建設株式会社入社
- 1998年まで首都圏及び東南アジアの現場を経験
- 支店技術部門を経験後、再び現場へ戻り現在に至る

製造業・営業開発職

中国赴任と上海万博へ参加

岡崎 剛久



より多くの建築物の建設に関わりたいという思いから、建設会社を選ばずカーテンウォールメーカーに就職することを望み、現在の会社へ入社したのが20数年前のことです。当時は日本各地、果ては海外物件も含めて年間30もの現場に携わり、設計・開発業務を担当していました。実際に図面に描かれた商品が真新しいビルの外装を包む姿を見るときに、担当の建設会社の現場監督と喜びを共感したことがとてもよい思い出となっております。

カーテンウォールは外壁の一部ですが、地震における層間変位に追従させたり、風（特に台風）荷重に対しての耐風圧性を持たせたり、断熱性や機密性などさまざまな機能を付加させ、より簡単に施工できる壁として高層建築物などに用いられております。施主、設計事務所、建設会社担当者とデザインや性能を含め検討し、工場にて生産し実大実験を行い、施工計画を立てて取付ける、苦労は多いですがとてもやりがいがありました。

現在、私は海外販売事業に席をおき、上海駐在員としてがんばっております。上海は300m以上の高層ビルが300本以上ある大都市であり、現在640mの『上海中心ビル』という計画が進んでおります。上海以外の北京、広州などの都市においても大規模な計画が進んでおり、生活レベルが激変する中国を目の当たりにしております。

たまたま今年の5/1～10/31の期間開催された上海万国博覧会の日本産業館に当社が出展することとなり、縁があって万博の仕事に携わることとなりました。225もの国と企業体などが参加し、上海の中心地にて開催され、日本からは『日本館・日本産業館・大阪館』の3館が出展し、当の日本産業館については建設から館の運営、VIPのご案内など、大阪万博以来の大規模博覧会で予想入場者数7,000万人という大イベントに、副館長として携わることができたのは大変な名誉な出来事でした。結果は7,300万人と予想を上回る入場者数が来場されました。

今後は中国国内の新たな開発物件に携わり、日本の技術を生かし、たくさんの『建築物』に関与して、めまぐるしく変化する中国をもう少々楽しんでみたいと思います。（おかざき よしひさ）

略歴

- 1988年 博士前期課程建築学専攻修了（黒田・浅里研究室）
- 1988年 トステム株式会社入社
- 2009年 トステム株式会社
海外販売事業本部中国統轄部（上海駐在）

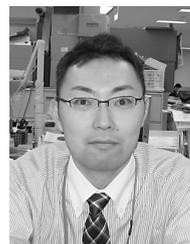


上海万博 日本産業館

公務員・建築職

一味違った建築職

高橋 雄樹



私が建築に興味を持ったのは建築現場の職人を見たときだった。高校は工業高校建築学科に進学した。しかし木材加工などの実習を受けた際に、手先が器用ではないので職人には向いてないと感じ、大学進学を決断した。大学では設計が得意な同期と比べるとデザインセンスがないことが分かった。都市計画に興味があったこと、住民のためになる仕事をしたいという考えから公務員を目指す選択をした。

私は、国家公務員のⅠ種・Ⅱ種、日本郵政公社、地方公務員の秋田県、秋田市の5つを『建築』で受験し、結果は、Ⅱ種と秋田市が合格だった。第一希望は国土交通省東北地方整備局だったが、建築職を採用しない年に当たってしまい、最終的には秋田市を選択した。しかし、住民に一番近い立場で仕事ができるので、公務員を目指した初心通りに就職できたと思う。

採用後は建築行政の業務に就いた。建築計画や既存建築物が建築基準法や関係法令に違反があれば指導を行い、適法な建築物に変更・是正させ安全な建築物を建築させる。ひいては安全・安心なまちづくりとなることに繋がる業務である。安全確保という観点から厳しい指導も止むを得ないが、資金面などで是非対応が難しいという住民の立場も理解でき、心苦しいこともある。しかし、最終的に安全な建築物が完成し、その後も適法に管理されていることが分かると、指導時の心苦しさも吹き飛んで嬉しく感じる。

採用4年目に出身地の横手市で建築職を採用することが分かり、4年間秋田市で学んだことを地元で活かせるのではないかと考え、採用試験を受験。現在は横手市に勤務し3年目になる。

秋田市より職員数も少なく、業務は建築行政と営繕業務を兼務している。営繕業務とは市有建築物の建築や改修に携わる業務で、発注者として委託設計者と打合せをしたり、設計者として現場監理を行ったりする。二つの立場から建築に携われる面白さがある。

建築は業務が細分化されている。最初から分野を絞って学ぶのではなく、多くの分野を学んで、どの分野が得意・興味があるのか、その分野にはどのような職があるのか考え、有意義な学生生活を送り、卒業後はそれぞれの立場から社会に貢献して欲しい。

（たかはし ゆうき）

略歴

- 2004年 建築学科卒業（土方研究室）
- 2004年 秋田市役所入庁
- 2008年 横手市役所入庁



大学院特別講義聴講報告

「空間の魅力と図と地の空間構造」(積田洋先生)を聴講して

大学院博士前期課程1年 坂上敦志

今回の大学院特別講義は、7月8日に70号館7056教室にて、院生・学部生・先生方含めて約30名が臨席し、積田洋先生（東京電機大学未来科学部建築学科教授）による「空間の魅力と図と地の空間構造」と題して講演された。現代の都市・街路空間について各国の様々なスライドと共に、とてもわかりやすくご教授頂いた。本稿では、講義内容の一部を紹介すると共に、聴講した上で考えたことを以下に述べる。

まず、景観とは風景レベルの大景観、地域レベルの中景観、街路レベルの街並景観の三種類に分類できる。積田先生は主に街並景観を対象に研究されている。「都市において、より豊かな街並みとは何なのか？」講義ではいくつかの都市を例に挙げスライドを見ながら紹介された。歴史的街並みのもつ豊かな雰囲気について着目してみると、ヨーロッパの都市では街路に面する建築の屋根や窓の形、テクスチャーなど、建築様式や形態、壁面の位置や高さがそろっていて統一された街並であった。全体の構成から見ても、壁の量や開口部の比率などが同程度で美しく統一されたデザインとなっていた。日本でも、糸格子や駒寄せが整然と並ぶ京都の祇園新橋通りや弁柄塗りの朱色の壁が連なる岡山の吹屋など、こちらも空間構成要素のデザインがそろっていて、連続的で統一感を与えている。一方で、イタリアの都市空間、フィレンツェ(写真1)では、統一されたデザインの中にも教会や庁舎などが象徴的なランドマークとなっていて、街並において、その街の印象や個性を高めていた。

積田先生の研究の中では、これらの街路空間を評価する上で、街路空間に対する人の心理や意識による評価と街路空間を構成する様々な物理的要素との対応関係を数

量的に示すことで客観的な“共通のものさし”を見出そうとしている。こうすることで、より豊かな街路空間の整備・計画・設計を可能にしようとするものである。

講義の中で人が街路空間を体験した時に、特に印象に残ったり、記憶にとどめる建築物や装置など、いわゆるキーエレメントを「図」と定義し、不特定な建築物や街路のペイジメントを「地」と定義している。また、街路樹や緑などのエレメントは「図的」なものとして定義され、図・図的・地のエレメントのバランスによって街路空間は分類でき、その評価が行えるとの説明があった。

私が街路空間と言われ、最初に思いついたのは、卒業設計でも取り組んだ下町の雑多な空間である(写真2)。下町の雑多な空間は、それを構成する要素そのもののグレードは低く、好ましい空間だとは言いがたいが、生活感が溢れ建物に囲まれた街路空間は雰囲気の良さを持っている。この空間を先生のおっしゃる図・図的・地のエレメントに分け、分析してみると、雑多ながらもその雑多さが連続することによって地となり統一感を生み出していると言えよう。下町の街路空間を体験すると分かるが、ヒューマンスケールな建物が並ぶ中で、銭湯やその煙突は、その大きな空間や突出が図となる。また、下町の空間の一つである商店街では、店名が書かれた看板や惣菜をディスプレイしているショーケースが図となっており、これらの要素が下町の空間を特徴付けていると考えられる。下町の良さとはこのような構成要素によって作られていることが再認識できた。

最後に、この講義を聴講して諸外国の街並みを見て見聞を深めると共に、建築学生として街を見る視点を養わなければと考えさせられた。



写真1 統一感のある景観(フィレンツェ)



写真2 下町の街路空間(京島)

大学院特別講義聴講報告

「連続体の力学と材料挙動のシミュレーション」(富田佳宏先生)を聴講して

大学院博士後期課程3年 杉山和隆

平成22年10月22日(金)、本館3階第一会議室にて「連続体の力学と材料挙動のシミュレーション」と題して、富田佳宏先生(福井工業大学工学部機械工学科教授)による大学院特別講義が開催された。「連続体力学の基礎」や「数値弾塑性力学」の著者としても知られている先生である。

講演の主題は、すべての物体(材料)は、連続体とみなして挙動を解析できることであった。連続体の解析には、あらゆる背景が存在しており、その背景があってこそその研究であり、研究者としてのあり方なども講演していただいた。

講演内容は多岐に渡るが、本稿では、物体を連続体とみなして解析するうえで均一・不均一の差が変形に影響を及ぼすこと、物体のスケールの違いが、解析結果にどのくらいの影響を及ぼすか、など印象に残った事項について述べる。

物体を連続体の力学として解析するには、次の4つの法則が基となる。質量保存則、運動量保存則、角運動量保存則、そしてエネルギー保存則である。これらを満足するように、変分原理や構成式などを導くことにより、いろいろな材料を解析することができる。これは、工学的研究者を志す者にとってあたりまえの話だが、本講義を聞いて再度必要事項であると実感させられた。

例えば、ハンカチのしわがどのように生じるのか、物体の形状解析は適当な構成則を用いて有限要素法によって解析できる。物体の要素分割を細かくすることにより、詳細な解析を可能にするが、物体中に均一・不均一の概念が存在し、そのため均一と不均一の2つの状態を考慮して解析を行わねばならない。ただし、形状を細かくすると不明な点が多くなる。その場合は、金属繊維や材料のミクロ部分までをデータとして用いることにより、それに相応した解析ができる。つまり、より正確であり、緻密な解析を行うには、膨大及び繊細なデータが必要である。あくまで、ミクロ部分における微小な解析もミクロな解析データを用意しなければ、必要なレベルの解を得ることができない。低い解像度の写真をいくら拡大しても解像度以上の鮮明さが得られないように、緻密なデータを用いなければ、解析結果で知りたい大事な部分がわからないままになってしまうのだ。

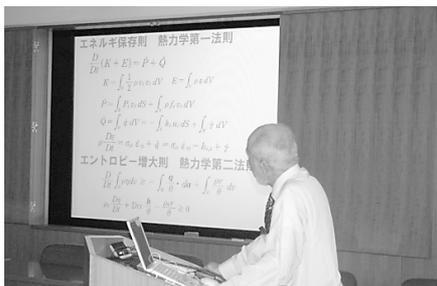
さて、物体のスケールの違いは、解析結果に影響を及ぼすのか。一般に、同一材料を異なる寸法でモデル化し、解析した場合でも結果は変わらない。大小のスケール差が違えども結果は変化しないのがあたりまえと思うかもしれない。対象の寸法を変えると変形量や応力などに影響するのか。形状解析をする上で最も気になる点である。スケールが大きければ挙動は大きくなるし、小さければ挙動は微小となると考えてしまう。しかし、富田先生は、「大小スケールが違っていても、物体における均一・不均一の状態は変化しない、つまり、縦横比が変化するだけで、実際の挙動は変化していない、モノの本質は変わらない」と言われる。これが寸法効果である。

先生には講演の終わりに、日進月歩する情報技術との関わり方、世界における日本の在り方についても一言頂いた。近未来において、おそらく解析できないものはないだろうとのことである。最新の電子計算機では、 10^6 GFLOPS以上の高速演算が可能であり、より現実に近い解析も夢ではないという。

また、我が国は、諸外国からみてどのくらいの位置づけになっているか、今の学生たちが今後の日本社会を牽引していくには、どのようにしたらよいのか。

我が国は、諸外国と比較して、国際競争力の順位が17番目だという(2009年調べ)。その背景には、GDPや経済力の低下が原因であるとのことである。しかし、科学技術力は世界の中で第2位である。先生は、もっと誇ってもよいと言われる。世界1位があるので世界2位であることをわすれてはいけないとも指摘された。未来の研究者をどのように育てていくかについて、基礎学力の積み重ねが大切であり、未知の分野を切り開き、何か新しい研究をはじめめるためにも、このことが一番重要であると言われ、この講義を締めくくられた。

今回の講義を拝聴し、私には、先生が“モノを見る目を培って欲しい”と言われていたように感じられた。基礎学力があれば連続体力学も複雑な解析もだれでも習得できるだろう。また、自分が今何をしているのか(自分を取り巻く現状)の背景を読み取る認識力、状況に応じて物事を冷静に判断できる理解力が今後の社会について必要であると感じさせられた講義であった。



富田佳宏先生



熱心に聴講する学生たち

第53回日本大学工学部学術研究発表会

開催日：平成22年12月4日（土）

建築学部会 <第1会場：7033教室>

- ・ボイドスラブの床衝撃音遮断性能に関する研究 ーボイドの断面形状と振動減衰率の関係ー ○藤田伶, 濱田幸雄
- ・重量床衝撃音の評価方法の検討 ー評定尺度法による物理量と心理量の対応に関する検討ー ○井上恭平, 濱田幸雄
- ・重量床衝撃音発生器の開発 ー連続使用時の衝撃力安定性及び手動落下との比較ー ○中村俊幸, 濱田幸雄
- ・レーザードップラー振動計の応用技術に関する研究 ー重量床衝撃音低減工法開発への応用例ー ○多喜翔一, 濱田幸雄
- ・吹抜けを有する空間の音響特性及び設計手法に関する研究 ーエコータイムパターン測定ー ○鈴木極, 濱田幸雄
- ・GL工法による遮音欠損に関する音響模型実験 ○添田太貴, 濱田幸雄
- ・プロセニウムを持つ劇場・ホールの管理・運営に関する研究 ー公立文化施設を事例としてー ○坂上敦志, 浦部智義, 高木義典
- ・住宅外形とフラクタル次元 ○渡邊康友, 倉田光春
- ・景観形成に着目した都市更新手法に関する研究 ー街路景観構成要素の心理量評価と物理量評価との関係ー ○佐々木健人, 土方吉雄, 三浦金作
- ・自動車から自転車への利用転換の可能性に関する研究 ー郡山市中心市街地における自転車利用実態についてー ○鈴木聖太, 土方吉雄, 三浦金作
- ・メディア情報の差異による経路探索行動に関する研究 ー注視範囲と視線移動パターンについてー ○金子光義, 三浦金作, 土方吉雄
- ・仙台市中心市街地の施設用途に関する研究 ーアーケード沿い建築物の1階部分の施設用途の経年変化についてー ○秋場辰也, 岡野健太郎, 三浦金作, 土方吉雄
- ・住まいにおける家族の居場所に関する実態調査 ○木下勇太郎, 若井正一
- ・正座用椅子の座りやすさと身体支持条件に関する一考察 ○平林卓朗, 若井正一
- ・インテリアの資格職能からみた標準業務に関する一考察 ○若井正一, 松下信禎

建築学部会 <第2会場：7034教室>

- ・速度依存力の非線形性に関する一考察 ○倉田光春
- ・粘弾性フレームにおける歪置換法 ○杉山和隆, 倉田光春, Buntara S.GAN
- ・振子型制振モデルの振動特性 ○徳永裕子, 倉田光春
- ・せん断遅れを考慮した中実断面梁の一般解 ○野内英治, 倉田光春
- ・トラスの非線形挙動に関する実験的研究 ○和田成就, 野内英治, 倉田光春
- ・Gantesの提案した可動式展開アーチ ○三嶋謙裕, 野内英治
- ・土壁の性質に関する基礎実験 ー速報ー ○浦憲親 (金沢工大)
- ・表面含浸材の屋外暴露試験 ー暴露5.5年後の試験結果ー ○斎藤耕司, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・ひび割れの自己修復機能を有するコンクリートの自己修復性能に関する研究 ○熊田廣樹, Sanjay PAREEK
- ・RC造十字形接合部の接合部せん断破壊における終局限界状態の一考察 ○鈴木裕介, Sanjay PAREEK, 倉田光春
- ・中層RC造建物の多点常時微動測定 ○海老沢智規, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・低層RC造建物における耐震補強効果の検討 ○石橋慧人, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・不十分な溶接部を有する既存鉄骨造柱はり接合部の弾塑性解析 ○板垣鉄哉, 浅里和茂, 千葉正裕, 日比野巧
- ・遺伝的アルゴリズムに基づくテンセグリティ構造の形状発見 ○山本学, Buntara S.GAN, 藤田香里
- ・2重グリッド・アルゴリズムによるSPH法の高速度に関する研究 ○川田尚弘, Buntara S.GAN, 二宮裕悠
- ・動的縮小法における平面応力に関する研究 ○小林直道, Buntara S.GAN, 丸山淳
- ・地震時における住宅建築の鋼管杭基礎による免震効果に関する研究 ○安齋泰弘, Buntara S.GAN, 黒川順平

工学部長指定研究に関する部会

- ・「ロハスの家3号」の基本計画・設計 ー建築デザインからのアプローチー ○浦部智義, 橋本純, 伊藤耕祐, 長林久夫, 影山千秋
- ・地域住民との協同による住環境の再構築 ー須賀川市におけるケーススタディーー ○市岡綾子

学 会 発 表

* 届け出があった記事を掲載

- 2010年日本建築学会大会 日時：平成22年9月9日～11日 会場：富山大学
- ・繰り返し曲げ強度試験を行ったモルタルの自己修復性能に関する研究 ○熊田廣樹, Sanjay PAREEK
 - ・ピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの調合繊維混入率の算定法 ○齋藤俊克, 出村克宣
 - ・ピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの機械的性質に及ぼす繊維長さ粗骨材最大寸法比の影響 ○齋藤耕司, 齋藤俊克, 出村克宣
 - ・診察室に対する医師の要求条件の調査 - 病院建築の計画要件に関する研究 (その2) - ○太田亮平, 浦部智義, 上野佳奈子, 中山誠健, 早川真介, 星野知栄
 - ・医局に対する医師の要求条件の調査 - 病院建築の計画要件に関する研究 (その3) - ○早川真介, 浦部智義, 上野佳奈子, 中山誠健, 太田亮平, 星野知栄
 - ・ホール利用頻度が高い施設のサイン計画に関する調査研究 - 劇場・ホール施設のサイン計画に関する研究(その1) - ○三瓶宣子, 浦部智義, 幸和紀
 - ・劇場・ホールを持つ公立文化施設の日常利用圏域の研究 - 一般開放性を重視した施設の公演時外利用の調査研究 - ○渡邊洋一, 浦部智義
 - ・移動に伴う印象的なシーンと階段の魅力に関する分析 - 建築空間における階段・スロープの研究 (その11) - ○中山誠健(東京電機大), 積田洋, 浦部智義, 元田草太, 須賀陸
 - ・階段空間における基本的構成要素が及ぼすデザインの評価の研究 - 建築空間における階段・スロープの研究 (その12) - ○須賀陸(東京電機大), 積田洋, 浦部智義, 中山誠健, 元田草太, 依田悠介
 - ・自転車駐輪場の使用実態からみた駐輪に必要なスペースに関する検討 身体周囲に必要なアキ寸法の計測に関する人間工学的研究 ○若井正一
 - ・住宅の評価指標に関する基礎的研究 ○渡邊康友, 倉田光春
 - ・メディア情報の差異による経路探索行動に関する研究 その2. 探索歩行時の行動特性について ○今川理香子, 三浦金作, 土方吉雄, 金子光義, 後藤司
 - ・メディア情報の差異による経路探索行動に関する研究 その3. 探索歩行時の視視傾向について ○金子光義, 三浦金作, 土方吉雄, 今川理香子, 後藤司
 - ・アーケードのある街路の空間特性に関する研究 その5. 滞留行動について ○柳沼一輝, 三浦金作, 土方吉雄, 佐藤壮
 - ・仙台市中心市街地の施設用途構成に関する研究 その1 アーケード沿い建築物の施設用途構成について ○岡野健太郎, 三浦金作, 土方吉雄, 秋場辰也
 - ・既成市街地における防犯環境設計に関する研究 - その5. 通学路における犯罪不安と空間特性 - ○佐々木健人, 土方吉雄, 三浦金作
 - ・既成市街地における防犯環境設計に関する研究 - その6. 公園の防犯性能と景観性能 - ○鈴木聖太, 土方吉雄, 三浦金作
 - ・動的縮小法における平面応力に関する研究 ○小林直道, 倉田光春, Buntara S. GAN, 丸山淳
 - ・非線形挙動に関する基礎的研究 ○徳永裕子, 倉田光春
 - ・せん断遅れの影響を考慮した梁の一般解 ○杉山和隆, 倉田光春, Buntara S. GAN
 - ・遺传的アルゴリズムによる杭配置の最適化 ○二宮裕悠, Buntara S. GAN, 川田尚弘
 - ・ねじ込み接合アルミ単層ラチスドームの座屈挙動に関する実験的研究 ○和田成就, 倉田光春, 野内英治, 三嶋謙裕
 - ・細長い平面形を有する建物の立体振動性状 - その7 耐震補強効果の検討 - ○石橋慧人, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
 - ・地震時における住宅建築の鋼管杭基礎による免震効果に関する研究 ○安齋泰弘, Buntara S. GAN, 藤田香里
 - ・建築音響関係者を対象とした床衝撃音聴感評価実験結果の検討 - 最大A特性床衝撃音レベル並びにL数と各種主観評価量の対応 - ○濱田幸雄, 中澤真司, 稲留康一, 平松友孝
 - ・集合住宅の室内騒音レベルの現状について ○岩本毅(三井住友建設), 濱田幸雄
- 2010日本インテリア学会大会 日時：平成22年10月24日、会場：大阪樟蔭女子大学
- ・福島県南会津郡田代町に立地する「民宿」の生活実態に関する一考察 ○星ルミ子, 若井正一
 - ・住まいにおける家族の居場所に関する実態調査 ～続柄別にみた居室や机の占有状況について～ ○木下勇太郎, 若井正一
 - ・正座位用椅子の座りやすさと身体支持条件に関する一考察 ○平林卓朗, 若井正一
- WCCM/APCOM2010 日時：平成22年7月19日～23日、会場：Sydney Convention & Exhibition Centre
- ・A Consistent Beam Element Formulation Considering Shear Lag Effect
E.Nouchi, M.Kurata, Buntara S.Gan, and K.Sugiyama

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・齋藤俊克, 有岡大輔, 出村克宣; 繊維長さ粗骨材最大寸法比がピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの力学的性質に及ぼす影響, コンクリート工学年次論文集, Vol. 32, No. 1, pp. 1421-1426, July 2010. (コンクリート工学年次大会2010)
- ・若井正一, 松下信禎, 根本賢; 身体周囲に必要なアキ寸法の計測と体系化に関する研究・第1報アキ寸法の研究的系譜と特色について, 日本大学工学部紀要, 第52巻, 第1号, pp. 1-9, Sep. 2010
- ・松下信禎, 若井正一; インテリアの資格職能からみた設計計画と標準業務に関する実態報告, 日本大学工学部紀要, 第52巻, 第1号, pp. 11-15, Sep. 2010
- ・中山誠健, 積田洋, 浦部智義, 元田草太, 須賀陸; 階段空間における基本的構成要素が及ぼすデザインの評価の研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 654, pp. 1883-1891, Sep. 2010
- ・齋藤俊克, 出村克宣; ピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの調合設計法の提案, 日本建築学会構造系論文集, Vol. 75, No. 657, pp. 1947-1953, Nov. 2010.

新任の先生

非常勤講師 早野 由美恵

担当科目：建築造形演習



満開の桜並木の下を自分が友人たちと胸を弾ませて通っていた母校の路を、数十年後同じ様に将来に向かい建築を学ぶ後輩たちに、自分の得て来たことを伝える為に再び通うことを、大変うれしく思うと同時に、責任の重大さを噛み締めています。

私は、昭和〇〇年(内緒)に本大学建築学科を卒業し、建築の世界に入りました。仕事は、一般住宅から何十億もするホテル、校舎の等の公共施設まで多岐に渡る物件の建築設計です。同年代の人々が楽しく休日を過ごすのを横目に、ひたすら仕事を覚え、依頼された納期に間に合わせる為に、睡眠や休日を返上することも当たり前な年月を過ごして来ました。建築の仕事は、他の仕事に負けず劣らず結構ハードだと思います。それでも今までこの仕事を続けてこられたのは、私にとって何にも代え難い大きな喜びを設計の仕事を通じて得ることが出来ていたからです。ひとつは創造の喜び。そして、施主や関係者の皆さんに喜ばれる喜びです。この喜びは、途中何度もうけそうになる心の大きな支えでした。現在は人(自他)が成長する喜びも味わう機会を頂き、とても有り難く思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

非常勤講師 松下 房恵

担当科目：建築環境・設備概論



私は、多摩美術大学を卒業し、これまで幾つかの設計事務所等で実務を重ねてきました。現在は東京都にて設計事務所を主宰し、基本計画から実施設計に至るまで様々な建築物に携わっています。意匠設計の実務の中では、デザインの他、多様な法律知識を求められると共に、構造設計、設備設計に関する知識も要求されます。建築技術が高度化し、設計分野においても細分化がなされ、専門化が進んでいますが、社会で求められるのは建築に関する総合的な知識だと日々感じています。

また、建築は芸術の分野の1つに含まれます。しかし、絵画や彫刻と違い、建築は設計者のみで完成させることはできません。建築を完成させるには、様々な技術を持った方々の協力が不可欠です。設計者に求められるのは、建築の総合的な知識を把握した上で、自分の意図を的確に伝えるコミュニケーション能力にあると思います。

そして、今、建築業界は景気低迷などで厳しい環境におかれています。就職が難しい時代である半面、高齢化、少子化のため、若い人材が不足しているのも事実です。

私は、大学という次の時代を担う人材育成に携われる機会をいただき光榮に思います。今までの私の経験が少しでも学生の皆様のお役に立てれば幸いです。

■**土方准教授**は、8月6日、郡山市より建築審査会委員を委嘱され、会長に選出された。

■**土方准教授**は、8月13日、福島県より福島県都市計画審議会委員・会長代理に再任された。

■**浅里教授**は、8月18日、福島県より白河合同庁舎耐震改修工法選定委員会委員を委嘱された。

■**若井教授**は、8月25日、郡山商工会議所主催「世界ベンチ・イスデザイン創作コンテスト」の審査員を委嘱された。

■**土方准教授**は、福島県建築設計協同組合より、9月14日及び20日に開催された古民家等空き家活用プロポーザルの審査委員を委嘱された。

■**浅里教授**は、9月15日、福島県耐震化リフォーム等推進協議会主催「高校生が参加する地域防災」事業、「おじいちゃんち・おばあちゃんちは大丈夫!? 診て見隊大作戦」の一環として、福島工業高校にて「地震発生のメカニズム」と題して授業を行った。

■**市岡講師**は、9月22日、郡山市より郡山市景観審議会の委員を再度委嘱された。

■9月26日、本学部で開催された日本建築家協会(JIA)主催第5回JIA東北住宅大賞2010第1次公開審査会で、30件の応募作品中、阿部直人非常勤講師の作品「小さな

家」が第2次選考(現地調査)作品に選拔された。60名余りの学生が参加し、プロの設計者による熱いプレゼンテーションと審査状況を見る有意義な機会となった。

■**若井教授**は、9月30日、仙台市にて開催された(株)ニューオフィス推進協議会他主催の日経ニューオフィス賞東北ブロック授賞式の記念講演会で「オフィスの人間環境学」と題して講演された。

■**土方准教授**は、9月30日、福島県より福島県土地収用事業認定審議会委員を委嘱された。

教室ニュース

■**土方准教授**は、10月1日、郡山市より郡山市中心市街地活性化推進委員会委員を委嘱され、委員長に選出された。

■**浅里教授**は、10月7日、一般財団法人福島県建築安全機構主催の建築構造講習会にて「耐震診断と耐震改修の課題」と題して講演を行った。

■**若井教授**は、10月12日、ビッグパレットふくしまで開催された郡山商工会議所主催「こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア」の記念講演会で「次世代のUDものづくりへの提言～間のデザインと文

化～」と題して講演された。

■10月15日、せんだいメディアテークで開催された日本建築家協会(JIA)主催第13回東北建築学生賞で、13校14学科応募総数37作品中、**佐久間皓惟君**(3年生)の作品「CHARA-CTURE -Trick Shot Museum-」が奨励賞東北専門新聞連盟賞を受賞された。

■**市岡講師**は、10月18日、郡山市より郡山市公共事業評価委員会委員を委嘱された。

■**浦部准教授**は、10月25日に開催された福島県建築設計協同組合の「(仮称)認定こども園とうわ新築設計業務委託」設計競技において審査員を務めた。

■**市岡講師**は、11月1日、郡山市より郡山市景観まちづくり賞審査委員会の委員を再度委嘱された。

■**土方准教授**は、11月8日、鏡石町より鏡石町職員研修の講師を依頼され、「地域特性を考えた町づくりについて」と題して講話された。

■**浦部准教授**と浦部研究室は、11月12・13日にビッグパレットふくしまで行われた郡山商工会議所主催「こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア2010」において、研究室で行った建築計画・設計・まちづくり等に関する活動を展示し、その活動内容に関してデザイン賞の最優秀賞を受賞した。